

JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association

海外宣教連絡協力会

公報

No.48号

ヴィジョン2025と 21世紀の世界宣教

福田 崇 (ウイクリフ)

昨年6月に3年に一度の国際ウイクリフ聖書翻訳協会の総会が開催され、ヴィジョン2025が採択されました。主の2025年までに、聖書翻訳を必要とするすべての言語において聖書翻訳プロジェクトが着手されている状態を祈っていくというのが、このヴィジョンです。

国際ウイクリフ聖書翻訳協会は、すでに65年の歴史を刻んできています。今までに約1,600の言語に取り組んできています。新約聖書は500の言語で完成しています。現在、約1,100言語でプロジェクトを推進中です。聖書協会など他団体の働きなどを合わせると、約2,200言語で聖書が部分訳を含めて存在します(全聖書:366言語、新約聖書:928言語、部分訳918言語)。少なくとも後、2,000言語において聖書翻訳が必要であると見込まれています。今までのペースで、働きを継続していくと、後150年かかるとの試算が出ています。国際総会では、今までやってきたように、働きを続けて、150年かけて完成するという状況を、受け入れるのかという設問を中心に討議が行われました。結論は、「ノー」でした。

アジア・アフリカ・中南米の教会が宣教

大命令を自らへの命令として受け止め、世界宣教に取り組み、多くの宣教師を送り出してきている現実をどう理解し、宣教の主は何を教えようとしておられるのかという、課題に取り組みました。すでにある統計では、過半数の宣教師はアジア・アフリカ・中南米から出ていると言われます。20世紀を終わろうとしている今、キリストの教会は真に世界的な教会として姿を現しました。欧米を中心とした教会から、世界の全体をカバーする教会になり、その教会が世界宣教に取り組んでいるのが現状です。

2025年までにすべての言語で聖書翻訳プロジェクトをスタートさせるのは、どう考えても不可能です。しかし不可能を可能とされる主に信頼し、主の御声に聞き、前進することを決定しました。今まで以上に、時間を多く働けば達成できる種類の事柄でなく、きわめてラディカルな変化が求められているとの認識を持ち、伝統的に行ってきたことでも、すべてをチェックの対象にすることにしました。団体も65年たてば、多くの不要なものがごびりついてきます。伝統的に行ってきたことでも、中心的な価値観

に合わなければ、喜んで変革することを決定しました。白紙を宣教の主にお返しし、今新たに団体をスタートするとすれば、どのように優先順位を決め、どのように働きを進めていくかが問われました。

以上に述べたことは、ウイクリフのみ
の問題でなく、21世紀の世界宣教にとって、それぞれの宣教団体・教団の世界宣教部門にとって、共通の課題と言えます。大きく変化している状況の中で、また残されている宣教の課題が今まで以上に厳しい中で、どのように取り組んでいくかが問われています。厳しい環境の中で、明るく前向きに、タフに取り組んでいける働き人が必要です。収穫の主には働き人を送って下さるように祈っていく必要があります。創造的なアプローチ、知恵を尽くした宣教方策が必要ですが、知恵を与えられる主に求めていく姿勢が今まで以上に必要です。宣教の働きには経済的な必要が伴います。必要も主が満たして下さるように祈りが必要でしょう。

特に今までの宣教師派遣国と新しい宣教師派遣国が、どのように協力関係を築けるかが鍵となるでしょう。200年間の近代宣教を推進してきた欧米の教会とその世界宣教部門、宣教団体が蓄積してきた知恵・システム・広がりや幅が、十分に新しいアジア・アフリカ・中南米の教会とその世界宣教部門、宣教団体にシェアされ、真の意味での世界全体の教会がそれぞれの与えられているものを惜しむことなく提供し、協力関係がスムーズになされ、福音の広がりにふさわしい教会の交わりが実現するならば、宣教の働きが飛躍的に前進するものと思われま



事務局の電話番号は:

・Tel&Fax.045-891-7769

・事務担当は:坂庭裕子姉です。よろしくお願ひします。

■フィリピンにおける イスラム伝道の様子■

—ウイクリフ—

山見 りつ子

この20年間にフィリピン経済は少しずつ良くなってきている。町や都市部での建物・道路・車などが改良されていることからわかる。海外からの援助もあった。フィリピンの80%がカトリックであるが、その他は8%のプロテスタント、8%のイスラム教徒と言われている。イスラム教徒の故郷はフィリピン南西部である。部族的には13のイスラム部族がある。主要なものは、3つ有り、マラナオ族・マギンダナオ族・タウスグ族である。マラナオ族は、ミンダナオ西北のマラウイ地区を中心に住み、約百万人いる。フィリピン中に進出している。結束が強く、商業に優れ、経済力がある。新約聖書が20年ほど前に完成し、現在旧約聖書の翻訳が進んでいる。マギンダナオ族は、マラナオ族に比べ、気性はおだやかで、学識の高い人も多い。ミンダナオ西部のコタバト地区を中心に住んでおり、約百万人いる。タウスグ族は、フィリピン南西部のボルネオに近いホロ島を中心に住んでおり、戦闘的で、漁業に優れ、各地に移住しても、海辺に住む部族である。新約聖書の改訂版が出版され、よく読まれている。旧約のモーセ5書も完成している。カラガン族には、日本からワーカーが行っている。カラガン族は、少数部族で6万人の人口で、農業・漁業を営むおとなしい気性の人々である。経済的には貧しい人々が多い。この他の少数部族で新約聖書の完成しているのは、ヤカン族・南サマ族・パグタランサマ族である。その他は進行中である。

フィリピンは、昨年建国百年祭を祝ったが、福音的なキリスト教会も宣教百年を祝った。フィリピン教会の特徴は、ペンテコステ派と日本で普通福音派と言われる教会とが深い交わりをしていることである。歌っている歌は差がない。今回の宣教百年のテーマは福音が届いていない地域・部族に福音を、であった。フィリピン、アジア、世界の福音の届いていない部族への関心が高められた。フィリピン国内の未伝の部族と言えばイスラム部族が多い。このために情報交換がなされ、多くの働き人が起こされた。フィリピンにおけるイスラム教徒と一般にクリスチャンと言われる非イスラム教徒とのへだたりは、地理的よりも意識的・文化的な距離である。イスラム教徒はフィリピンでは少数派であり、誇りを傷つけられることを嫌う。フィリピンのクリスチャンは「さわらぬ神にたたりなし」と言うような態度で距離をおいて接してきた。しかし最近になり、へりくだって過去のイスラム教徒に対して行ってきた悪いことや偏見を反省し、赦しをこい、積極的にイスラム部族の文化や習慣を学び、友達になり信頼関係を築いた上で、自然な対話の中で主を証しするような人々もいる。イスラム社会の外にある既存の教会に来なさいというより、イスラム社会の中で、聖書研究会を開いたり、建物中心の教会よりも、信者の家での教会を目指すような動きが目立っている。

治安の面では、ラモス大統領の時に、イスラム武装勢力と平和交渉が進み、イスラム勢力の自治が国の法律でも認められた。98年にエストラダ大統領になり、政府軍とイスラム勢力との小規模の戦闘が続いている。誘拐事件などもよく起きている。

イスラムの地区で奉仕する人たちは、たとえ団体や教派が違っていても、チームワークが重要である。あるワーカーのしたことがその地域に入っている全部の

ワーカーの働きに影響を与える。ワーカーが、定期的に集まり、祈り合い、励ましあることは特に大切である。ワーカー間で、文化の違いもあるが、お互いがお互いを尊敬し、協力して働くことが、良い証しになっている。■

■フィリピン宣教■

—OMF—

佐味 湖幸

フィリピンは人口7200万人、その大半がカトリック教徒、プロテスタントは7.5%（1990年）という状況です。

現在 OMF は約 120 名の宣教師がフィリピン教会と協力して、山地部族間での聖書翻訳、教会建設、低地での教会開拓、貧民街宣教、イスラム教宣教、宣教師子弟教育、キリスト教書出版、ビデオ宣教そして、マニラでの日本人宣教など様々な働きをしています。日本人宣教師は、品田師夫妻が地方教会で第二期目の働きをしておられます。新しく遣わされた合田師はタガログ語の研修中。私はマニラの貧民街で教会開拓の働きをしています。皆様のお祈りとご支援を感謝いたします。■

■フィリピン■

—インマヌエル—

梅田 昇・登志枝

フィリピンの人口は、6200万といわれ、歴史的に見て、カトリックの大きな影響を受けた国です。その中で、最近、福音派の教会が成長しており、国民の6-7%が福音派ともいわれます。100前後のことばが使われており、伝道活動が

活発に行われております。日本人宣教師も、フィリピン各地で奉仕しています。

私たちの教団は、連盟関係にあるウエスレアン教会の招聘を受けて、1979年以來、宣教師を派遣し続けています。私たちは、1988年に派遣されて、神学教育を中心に今年で12年目の奉仕に入っています。フィリピン・ウエスレアン教会は、1989年、アメリカ・ウエスレアン教会から独立し、現地人の指導者の下、自立、自治、自給、自育の教会として成長しています。現在、香港、ネパール、カンボジアに宣教師を派遣しています。この10年の間に、教会の数、教会員数も2倍以上になりました。現在は教会数430、会員数25,000ほどあります。4つの聖書大学を運営しており、やく200人の学生たちが学んでいます。今年から修士課程も開設され、伝道者、牧師の更なる教育が図られようとしています。

私たちは、ベンゲット州の山岳地帯で現地教会との協力のもと、聖書学校を開校するという目的のために派遣されて、7年奉仕しました。この間、さまざまな困難に直面しましたが、主の恵みは十分でした。この学校では、現在、49人の学生が学んでいます。

現在、マニラ郊外に居住し、ベンゲット、パラワン島、ミンダナオ島の3つの聖書大学において、集中講義の形で奉仕してします。去る3月、ミンダナオのロトバト州カバカンという町にある聖書大学で3週間教鞭を執りました。町にはイスラム教徒がたくさんおり、毎朝4時30分から、イスラムのお祈りがマイクを通して聞こえてきます。イスラム・ゲリラによる誘拐や殺人、爆弾事件などもあります。そのような中、クリスチャンとして歩み、福音の働きがなされていることに大きなチャレンジを与えられました。聖書大学の教鞭のない時には、マニラ教区でも、いろいろな現地教会で奉仕させて頂いております。現在、ベンゲッ

ト時代の教え子たちが各地に散らばって、教会の奉仕をしていることは大きな喜びです。

課題としては、フィリピンとして、経済的な困難があり、特に牧師方は低い収入ですが、福音のために感謝して奉仕しています。一つ一つの会衆が小さいという課題もあります。都市には教会が少なく、田舎に多いということもあります。多くのことばが使われているために伝道が困難である場合もあります。カトリックの影響もあり、名前はクリスチャンでも倫理性が低いこともあります。課題は様々ありますが、主イエスの大宣教命令に従って、福音の働きが拡大し、教会が成長してほしいと願っています。■

■東 欧■

—アンテオケ宣教会—

石川秀和

私たち家族は95年の5月からウィーンを拠点に東欧での働きを開始しました。当時東欧の情報はほとんどなく、だれを尋ね、どこへ行けば良いかも分からないような状況でしたので、東欧の全体像把握から働きは始まりました。第1期目は9カ国を調査し、第2期目は4カ国に的を絞りながら働きを進めています。現在はルーマニアでは神学校での奉仕や孤児院、同盟との交流、クリスチャンの学校支援、牧会支援(指導者の不足で牧者が平均3教会兼牧)、ボスニアヘルツェゴビナでは大学病院の医料品の支援、クロアチアでは教会牧会支援、ブルガリアではジプシー伝道をしています。そのほかウクライナ、モルドバ共和国、etcなどの国でも本当に人手が足りません。

東欧全他ではどこでも、経済の問題(個人収入日本の30分の1ほど)、難民、孤児、老人、医療。教会では神学生の養

成、リーダーの養成、校舎の建設、牧会者の必要、礼拝堂の必要、困窮者への支援、技術宣教師（ビジネス、農業、医療、看護婦、孤児院などのワーカー、自動車修理など）など多岐にわたります。コンボの今後も多くの助けを必要としています。

東欧の為お祈り下さい。■



JOMA 総会

記

■ 日 時：2000年4月17日（月）

a.m. 11:00 - 16:00

■ 会 場：お茶の水OCCビル
4 F 会議室

■ 連絡先：JOMA事務局
担当：坂庭裕子姉

■ プログラム：

11:00 - 12:30 講演

練馬神の教会・金本悟師

D・ボッシュ著

「宣教のパラダイム転換」の纏め・紹介

・ 12:30 - 13:30 愛餐

・ 13:30 - 16:00 報告と議事

報告は、各団体2分で、B5サイズ1枚に纏めて、ご提出ください。

■ 議 案：

- 1 1999年度事業報告
- 2 2000年度事業案・予算案
- 3 JOMAとJEAとの関係に関する語り合い、並びに、議決
- 4 役員改選

■ 追記①：昼食は、加盟団体代表1名については、JOMAで負担いたしますが、オブザーバーについては、1050円/人づつ、お支払いくださるようお願いいたします。

②：本年度より、役員を担当される【OMFと日本アッセンブリー】の2団体の代表は、同日9:30 - 10:30の、総会直前の年度最後の役員会にご同席くださいますように、お願いします。■

■参考資料■

JEA世界宣教委員会の

理念と目標

■ 理 念：

「JEA世界宣教委員会は、日本の教会が、聖書に根ざした世界宣教の神学理解を深め、独自にまた互いに協力し、主の再臨のときまで積極的に宣教を實踐できるように、啓発、支援し、励ましを与えてゆくものである。」

■ 具体的目標：

- 1 聖書的宣教神学を確立し展開する。
- 2 国内においては、宣教的教会形成を教会に根ざした世界宣教に寄与する。
- 3 世界における多種多様な聖書的世界宣教の推進に寄与する。
- 4 日本の諸教会の宣教事情を集め、諸教会に提供する。
- 5 日本の諸教会が世界宣教に関する経験とビジョンを共有し、励まし、補い合い、協力する場を提供する。
- 6 世界宣教の働きに関して国内・国外の宣教諸機関と協力する。■

「ふあつMK？」

福音的な諸教会を母体、また、背景として世界宣教の啓蒙・参与に関わるJOMAとJEA世界宣教委員会が存在するようになって以来、JOMAでは、競合を避け、ここ1、2年、経緯を見守る意味で、積極的な活動を控えながら、JOMAとして貢献できる分野を探ってきました。

JOMAとして今後とも取り組むべき専門的な分野のひとつが

「MK（宣教師子女）問題」

であろうとのことで、去る2月11日、「ふあつMK？」という会合を持ちました。クリスチャン新聞（2/27日号）の第1面他に、記事として取り上げられましたように大変意義のある集会であったと思います。発題者は、ウイクリフの教育宣教師・永井敏夫氏で

- ・「宣教師子女ということばの持つイメージ」
- ・「宣教師の家族の中での子どものとらえ方」
- ・「MKとは何か」
- ・「教育形態」
- ・「アイデンティティ」

といった大切なことどもが語られ、その後、宣教師子女としての経験をもつ方々による貴重な証しがなされました。

今後、JOMAでは、こうした専門的な分野を見出して、日本の教会による世界宣教の課題と取り組んでゆく所存であります。どのような分野が考えられるか、よき示唆をJOMA事務局にお寄せください（PZH）。■



JOMA 世界宣教地図のご注文を！
(JOMA 事務局—坂庭)

JOMA 世界宣教地図

近年、宣教師の出入りが頻繁になり、3年ごとに作成していた「JOMA世界宣教地図」ですが、それでは対応できなくなりました。今後、2年に1回、宣教地図を更新しなければならないと判断していますが、そのためには奉仕して下さる人材が必要です。

現在、事務局の坂庭裕子姉が、各宣教会団、各教会の国外宣教局（部・委員会）からアンケートを回収しつつ、その作業にあたってくださいます。お祈りください。

第4回・日本伝道会議

「21世紀の日本を担う教会の伝道」

今年6/27（火）—30（金）、沖縄で開催される第4回「日本伝道会議」の第9シンポジウムは「世界の教会とともに—宣教の聖書的基礎」が主題で、以下のような分科会がもたれます。

- ・分科会 32—ディアスポラの時代
 - ・分科会 33—宣教におけるパートナーシップ
 - ・分科会 34—宣教師の訓練・育成
 - ・分科会 35—世界の教会と日本の教会
 - ・分科会 36—聖霊と世界宣教
- 祈りとともにご出席を。

発行：海外宣教連絡協力会

発行者：平位 全一

住所：244-0842

横浜市栄区飯島町2441-10

Tel&Fax.045-891-7769

郵便振替：海外宣教連絡協力会

00160-7-106631